

清水の子



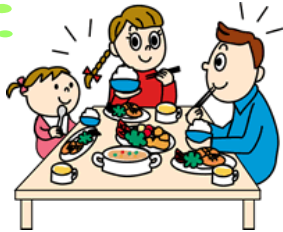
『未来を創造する
清水の子の育成』

◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

TEL 33-7285

Eメール simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp

第 6 号 平成 29 年 9 月 25 日 発行



家庭教育が基盤

校長 一谷 浩之

台風一過の晴れた朝、児童玄関前で登校してきた中学年の子達が1年生教室の窓の下にある朝顔の鉢植えを見えています。「あれ、台風で鉢が倒れてるね。」と一人の子が言ったとたん、別の子が鉢に走り寄って鉢を直し始めました。それに引き続いてみんな走って鉢を直しに行きました。

6年生の教室は3階です。給食を食べ終わると食器食缶を1階の配膳室まで運びます。結構重たい仕事です。6年生は配膳室に行く途中、2階の2年生教室に立ち寄ります。2年生の食器食缶運びの手伝いをしているのです。6年生と2年生と一緒に仕事をする姿は実にほほえましい光景です。

修学旅行に出発する朝、6年生がバスに乗り込みいざ出発と言うとき、5年生がいっぱい集まってきて動き出すバスに向かって「行ってらっしゃい」と書かれた大きな横断幕を掲げてくれました。全くのサプライズだったので動き出したバスの中はどよめきが起こりました。

毎日の学校生活の中で、子ども達は様々な経験を通してより豊かな人間性を身につけていきます。それらのことを眼をこらしてみても、本質は「人との関わり」にあることがわかります。人との関わりの中で感情の揺らぎが起こり、それが行動化されていくのです。教育のキーワードの1つは「人との関わり」です。

一方、様々な感情の揺らぎ経験した子ども達が帰る場所は家庭です。一番心安まる場所であり、飾らない自分を出すことができる場所です。実は一番濃密な人との関わりを経験する場所が家庭であることは言うまでもありません。家庭教育が子どもの人格形成に大きな位置を占めると言われる所以です。



現在、学校では教育相談週間の真っ最中ですが、保護者との個別面談の中で家庭での様々な悩み、子育ての方法の相談が担任に寄せられています。子育ての方法は様々であり模範解答はありません。基本的に全て正解だと感じます。実は悩みや問題意識を持った時点で懸案は半分解決しているのです。それに気付く感度の良いアンテナがあるということです。そして、意を決して誰かに相談した時点でほぼ解決しているというのです。相談された方、自信を持って下さい。相談された勇気に敬意を表します。保護者の行動力が子どもを育てます。勇気と自信を持って一歩前に進んで下さい。

先に紹介した子ども達の豊かな感性の行動は、家庭教育で培われた感性が、ある日、別の場所で形として現れたものです。毎日毎日の生活の中で豊かな感性が培われていくのです。家庭教育は地味で息の長い取組ですが必ずや花開く瞬間は訪れます。

毎日の生活が心豊かなものになることを願っています。